



言葉をかわせばみんな仲間。

社会参加活動例

地域(町内会・自治会)活動

趣味・健康・スポーツ・
教育・文化等の活動

ボランティア(社会奉仕)活動

シルバー人材センターなどにおける
生産・就業活動 など

「社会参加活動」と 「世代間交流」

趣味・スポーツ活動、学習・文化活動、社会貢献活動、自治会活動、生産・就業活動などの地域での各種社会活動に参加することによって、社会や他の人々とのつながりを持つことができます。これらを「社会参加活動」といいます。

また、子どもからお年寄りまですべての世代が理解し合い、助け合うため、異なる世代と一緒に活動を行うことを「世代間交流」といいます。

より良い高齢社会を迎えるために、これらの活動をみんなで進めていきましょう。

世代間交流例

各種スポーツ

交通

施設訪問

文化・技能の伝承 など

我が国の高齢社会対策

我が国においては高齢社会対策大綱に基づき、就業・所得・健康・福祉・学習・社会参加等、各分野にわたる施策を推進しています。



Seniors & Society for All Ages
Innovative Year of Older Persons 2018

この白きマークは、活力、多様性、助け合い、運動、参加を表しています。

問い合わせ先

総務庁長官官房高齢社会対策室

F 100-8900 東京都千代田区麹町3-1-1

TEL 03-3581-8081(内線4795)

FAX 03-3581-6170

ホームページアドレス

<http://www.samucho.go.jp/>

1999年6月22日 「高齢社会研究セミナー」 超高齢社会の高齢者像を考える



1999年10月1日 国際高齢者年記念式典



1999年10月1日 国際高齢者年記念式典

主催者挨拶 太田誠一 総務庁長官

○国際高齢者年記念式典における主催者挨拶

総務庁長官 太田 誠一

ご紹介をいただきました、総務庁長官の太田でございます。「国際高齢者の日」である本日、主として東京の皆さま方を中心に大勢参加され、国際高齢者年記念式典がかくも盛大に開催されますことを、心から感謝申し上げる次第です。



主催者挨拶を行う太田誠一総務庁長官

さて、我が国においては、平均寿命が今や世界レベルに達しています。2015年には日本の人口の約25%が65歳以上の高齢者となり、前回の投票率によるとすれば、60歳以上で投票者全体の45%程度を占める計算になります。つまり、様々な問題について、社会的な意志決定をするときに、高齢者の方々が大きな役割を果たすのであります。高齢社会については、どうもネガティブな面が強調されがちですが、このようにポジティブに捉える必要があります。高齢者を社会の重要な担い手として再認識すべきなのです。

私は今日、石原都知事に本当に久しぶりにお会いしましたが、知事の持っているエネルギーとか、知力、みずみずしい感覚といったものは、素晴らしい。2015年を迎えたときに、皆さん方も私も、そういう高齢者になりたいというような、そ

んな気がいたしております。これから「団塊の世代」の方々も高齢者の仲間入りをいたしますし、ビジネスの世界でも主役になる、文化や芸術の世界でも中心的に活躍するというように、シニアが主役の時代になってくるのではないのでしょうか。

そのような意味で、私たちは、この国際高齢者年というものを、何かやっかいな問題の解決ということではなく、シニアの時代を社会全体でどうやって迎えるかという気持ちで捉えなければいけないと思います。今日が一つの節目になって、新しい時代の扉を開ききっかけになれば幸いです。皆さま方のご貢献を賜りますよう心からお願いいたしまして、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

1999年10月1日 国際高齢者年記念式典
挨拶 石原慎太郎 東京都知事

東京都知事 石原 慎太郎

都知事の石原でございます。本日は、皆さん、この国際高齢者年の記念式典にお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

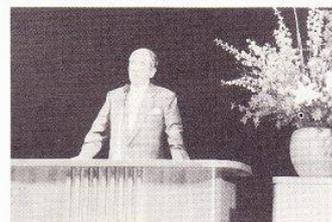
日本の社会は、これからどんどん高齢者が増えてまいります。高齢者の中には、介護を要する方などいろいろありますが、多数の高齢者は元気でありまして、これら的高齢者の皆さんにもう一踏ん張りも二踏ん張りもしていただかなければ、これからの日本の社会はおぼつかないという感じがいたします。

私は、このごろの若い人たちに気の毒な気がしています。何か自分を律せず、どこに行っても何をしてもよいかかわらず、一方で、本能のおもむくままに人の道をはずれたようなことを平気でしてしまう。この責任は、私たち大人にあります。だからこそ、この辺で性根をもう一回据え直して、日本の将来のことを自分たちの責任として考え、言うべきことはきちっと言わなければいけないという気がします。

昔はよく、おじいさんやおばあさんが、ここで遊んじゃいかんとかうるさく言われました。言われた方もそう悪い気はしなかったし、みんな素直に聞いていたものです。しかし、このごろどういうわけか、うるさいご隠居とか、年輩者がいなくなってきました。私たちは、同じ同胞でもあり、場合によっては知らない子どもでも叱ることがあってよいのではないのでしょうか。

私もこの年になって、30代、40代のころに気づかなかったことが、今ごろになってわかるということがよくあります。これはまさに、高齢者の知恵や経験がもたらす素晴らしい人間社会全体の財産であり、もっと他人のために積極的に使うべきだし、使わないわけにはいかないところまで来たと思います。

どうか皆さん、これからますますお元気で、この国を持ち直し、結果として周囲からも尊敬される日本の社会をつくり直していくよう、お互いに頑張りましょう。今日はおめでとうございました。



主催者挨拶を行う石原慎太郎東京都知事

1999年10月1日 国際高齢者年記念式典

国際高齢者年記念式典へのメッセージ 小渕恵三 内閣総理大臣

○国際高齢者年記念式典への内閣総理大臣メッセージ

「国際高齢者年フェア in TOKYO」中央記念式典の開催を、心からお慶び申し上げます。

初めに、本日の式典を始めとする各種の国際高齢者年記念事業の実施に御尽力いただいている東京都及び国際高齢者年記念事業実行委員会に敬意を表する次第であります。

また、本日の式典において、記念論文や様々な活動の功績に対して表彰を受けます方々に心からお祝い申し上げます。

この「国際高齢者年」は、高齢者の「自立」「参加」「ケア」「自己実現」「尊厳」の実現を目的とした「高齢者のための国連原則」を促進し、具体化するために、国連が定めたものであります。この理念は、まさに我が国の高齢社会対策の理念と合致しており、我が国においても、「国際高齢者年」に関連した様々な施策を講じていくことは、高齢社会対策の推進の観点から、大いに意義のあることであると考えております。

今日、我が国においては、国民の多くが、人類古来の願いである長寿を享受できるようになりました。その一方で、国民の間には、老後の生活に対する不安も広がっております。私はかねてより、二十一世紀における本格的な少子高齢社会の到来に向けて、国民一人一人が人生を通じて健康で生きがいを持って充実した生活を送れるよう、「安心への架け橋」を今から整備することが不可欠であると考えており、このような認識に立って、政府としても、明るく活力ある長寿社会を築き上げていくために全力で取り組んでいるところであります。

もとより、このような政府の取り組みだけで、心豊かな長寿社会が実現できるわけではありません。本日御参集の皆様方がこれまで取り組んでこられた社会参加活動や世代間の交流活動などの地道な活動の一つ一つが、そのための一歩となることと確信しております。

最後に、この「国際高齢者年」を契機として、全ての世代の方々が、高齢者及び高齢社会についての認識を一層深められ、二十一世紀における社会がよりよいものになっていくことを祈念して、私のメッセージといたします。

平成11年10月1日

内閣総理大臣 小 渕 恵 三

1999年10月2日 国際高齢者年フェア in TOKYO



1999年12月14日 「国際高齢者年記念シンポジウム」
高齢社会をいかに切り拓くか

